

4月22日に、本校3年生を対象に実施された「全国学力調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されました。生活習慣と学力との関係など、本校の生徒たちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

本校では、国語A、B 数学A、Bすべての調査で全国平均を上回っています。また、無解答率も全国より低く、国語B・数学Bの問いでは0%が半分を占める好結果でした。昨年と比べると、若干の数値に下回っているものがあるものの、概ね、最後まであきらめず問題に精一杯取り組む姿勢が育っています。

国語科より

	国語A(知識)	国語B(活用)
全国	79.4	51.0
京都府	79.4	51.3

全体的に大変よくできています。

「活用を中心としたB問題」は、全国平均と比べて7ポイント上回っています。特に、「自分の考えを話したり書いたり」や「発表で相手に伝えるように話を組み立てる」などが好結果でした。

やはり、日頃より大切にしている毎日の朝読書や学校全般における言語活動(生徒による自主企画・自主運営の場での徹底的な話し合いなど)を地道に続けることが大切です。

読書習慣を大切に！

数学科より

	数学A(知識)	数学B(活用)
全国	67.4	59.8
京都府	67.7	60.5

全体的によくできています。

「知識を中心としたA問題」、「活用を中心としたB問題」とも5～6ポイント上回っています。特に、「解答を言葉や式で説明する問題を最後まで書こうとする努力」に高い意識が見られます。説明や書くことの抵抗が少ない傾向が数学でも見られています。しかし、以下の分野は気になります。

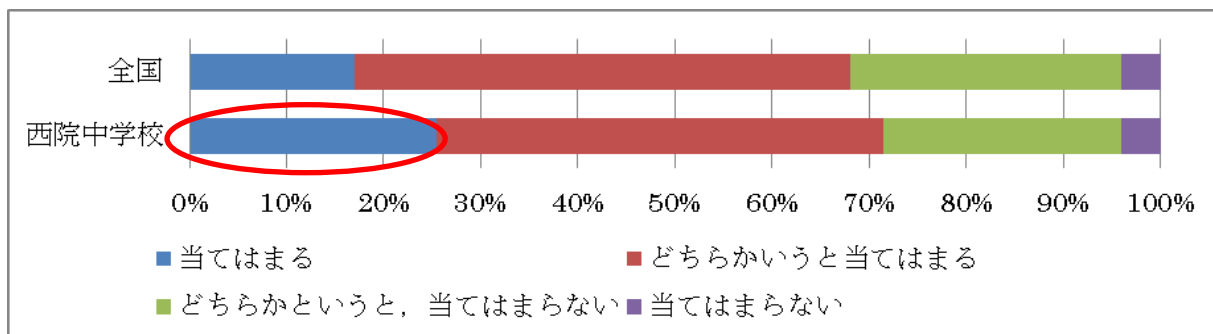
○関数を問う問題

○図形の性質を問う問題

このような課題について、復習など家庭学習をしっかりおこないましょう。

生徒質問紙調査から①

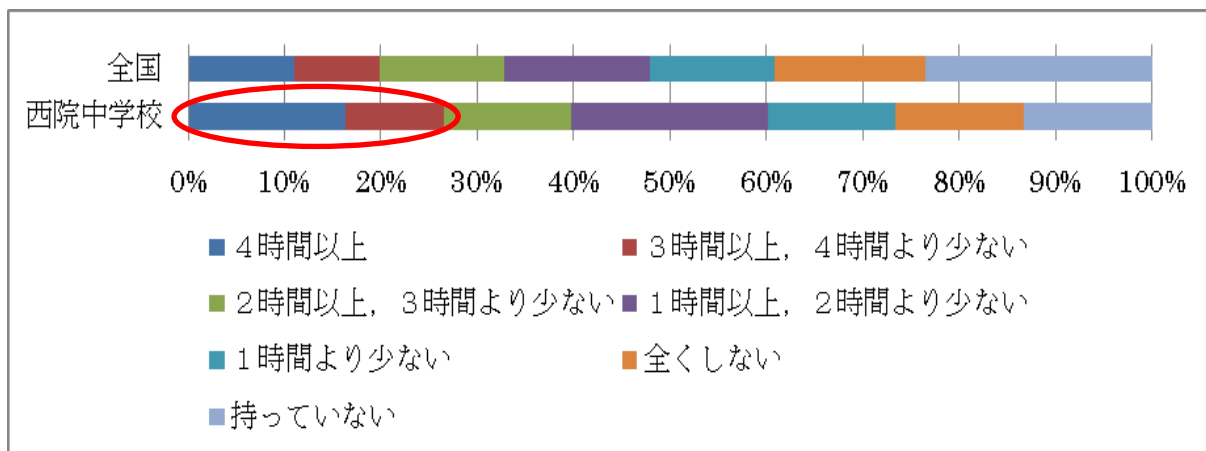
1. 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。



「失敗を恐れなくて挑戦している」と感じている生徒の割合が、全国平均と比べて大幅に上回っています。ここでも、本校の伝統の“生徒による自主企画・自主運営”による経験が、生きているように思います。

生徒質問紙調査から②

2. 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）



本校の生徒は、3時間以上使用している生徒の割合が26.5%であり、全国平均と比べて6.8ポイント高くなっています。有効な時間活用ができないとともに、友人関係等で弊害もたくさんあります。持っていない生徒が13.3%という現状です。ご家庭でも、持たせる限りは約束をしっかりとってください。

全体を通した本校の成果と課題

本校は、一小一中の強みを生かし、「生徒の主体性と自立を旨とする9年間の義務教育の創造」を目標に計画的・系統的な一貫教育を地域と一体となって進めてきています。特徴的なものとして、言語活動を取り入れた教育の工夫に取り組んできました。教科教育に限らず全領域において自主自立の取り組みを通し、一人一人にあった学力向上へむけた指導を継続しております。

その成果が、国語、数学の活用の力を問うB問題にあらわれており、その力がすべての教育に生かされている好循環を、今後も大切にしていきたいと思えます。

しかし、生徒質問紙調査の②に示したように、平日の家庭での時間の使い方として3時間以上の時間を携帯電話やスマートフォンに費やしているという結果も明らかとなっています。家庭学習についての課題は、学校と家庭が連携して改善していきたいと思えます。毎日の朝読書の取り組みを通じて、「読書は好きですか」の質問に59.2%が「そう思う」と答えています。毎日の少しずつの時間でも、良い習慣につなげるよう大切にしていきたいでしょう。

保護者の皆様へ

全国調査は、生徒たちの状況を知り、生徒たちの可能性を更にのばしたり、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、規則正しい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果を見ると学力は確実に定着してきているといえ、ご家庭での積極的な関わりや指導・支援の成果が表れてきています。今後とも本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

